

渡部泰明館長が紫綬褒章を受章

渡部館長は、中世和歌文学の分野において、既存の歌壇史研究や伝記研究の方法には拠らずに、あくまでも歌人に寄り添い、和歌が詠出された現場に立ち入って、その表現の〈あや〉を繙くことによって作品の詩的世界をつぶさに分析し、中世和歌史の動態を解明するなど和歌史研究を通じて学界に多大なる貢献を果たしました。

また、令和3年からは国文学研究資料館長として、日本文学をはじめとする人文学全般にわたる学術の基盤整備と深化発展に貢献している功績が認められ、この度、令和5年秋の紫綬褒章の受章が決まりました。

【略歴】

- 昭和61年 4月 東京大学文学部助手
- 同 63年 4月 フェリス女学院大学文学部専任講師
- 平成 3年 4月 フェリス女学院大学文学部助教授
- 同 5年 4月 上智大学文学部助教授
- 同 11年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
- 同 18年10月 東京大学大学院社会系研究科教授（～令和3年3月）
- 令和 3年 4月 人間文化研究機構国文学研究資料館長（～現在）

【専門分野】

和歌文学・日本中世文学

【受賞歴】

- 平成 2年 6月 日本古典文学会賞
- 平成30年12月 角川源義賞